



中国四国の畜産概要

令和8年3月

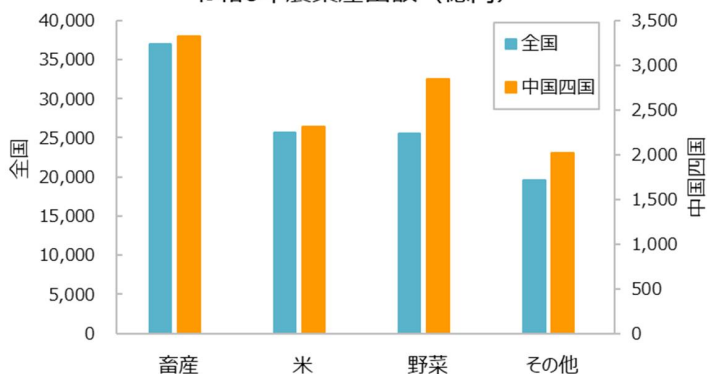


I 農業産出額（令和6年）

1. 全国

令和6年の農業総産出額は10兆8,200億円、このうち畜産は3兆6,932億円と農業全体の約34%を占めています。畜種別では鶏が29%、乳用牛が26%、肉用牛が21%、豚が21%となっています。

令和6年農業産出額（億円）

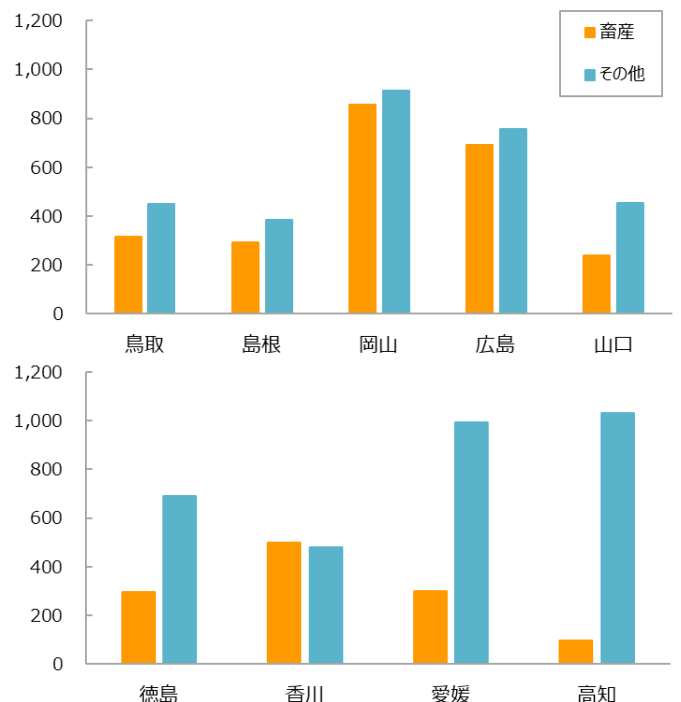


※その他：麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物

2. 中国四国地域

中国四国地域の令和6年の農業産出額は10,508億円、このうち畜産は3,328億円と農業全体の約32%を占めています。畜種別では鶏が47%、肉用牛が18%、乳用牛が18%、豚が16%となっています。

中国四国地域各県の農業生産額（億円）

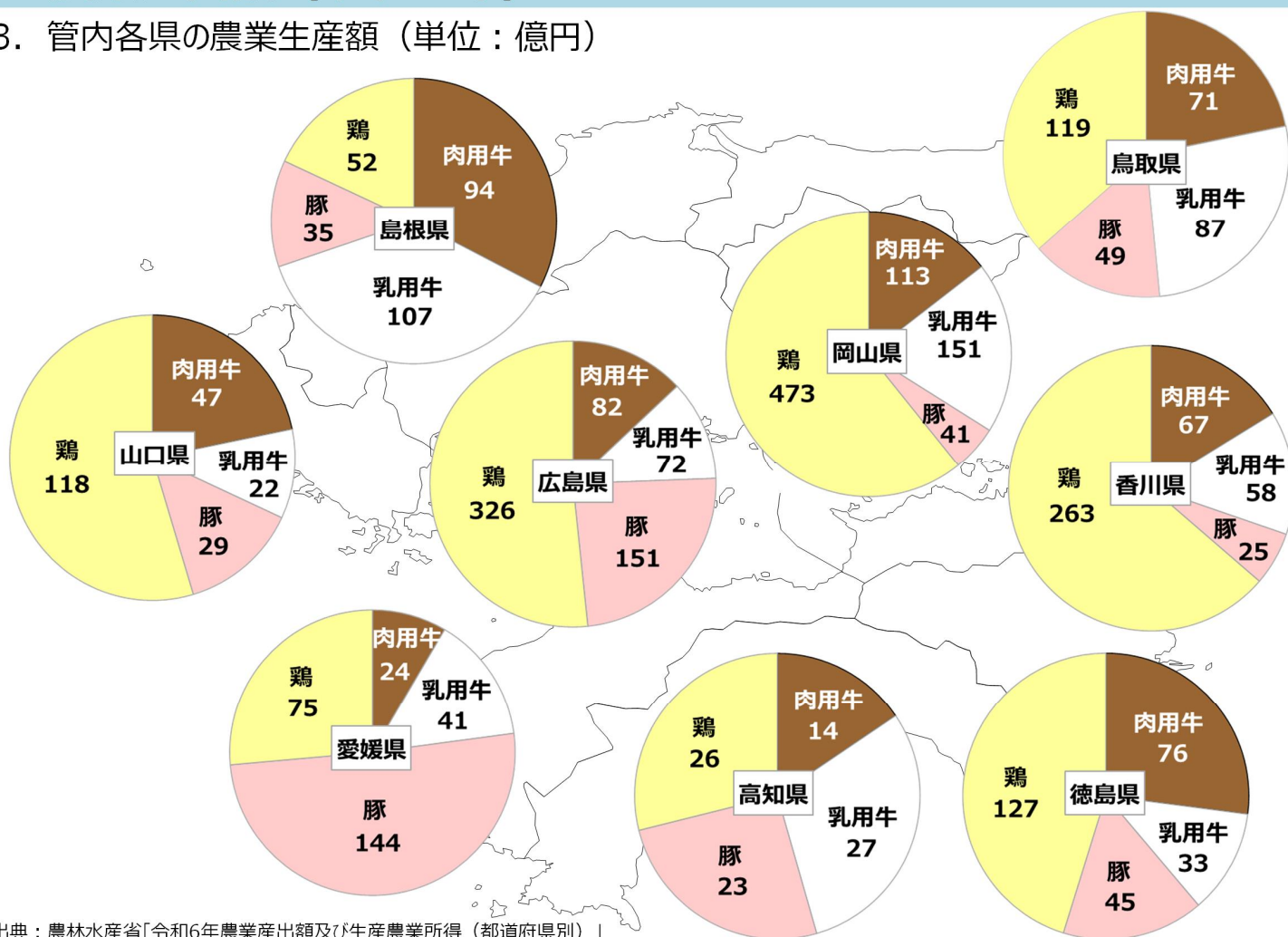


※その他：米、野菜、麦類、雑穀、豆類、いも類、果実、花き、工芸農作物、その他作物、加工農産物



I 農業産出額（令和6年）

3. 管内各県の農業生産額（単位：億円）



出典：農林水産省「令和6年農業産出額及び生産農業所得（都道府県別）」

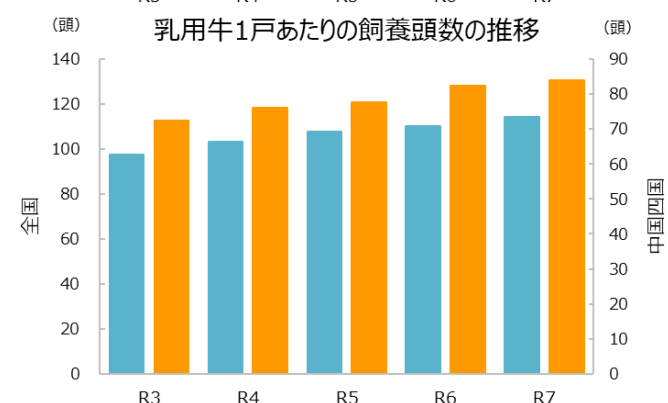
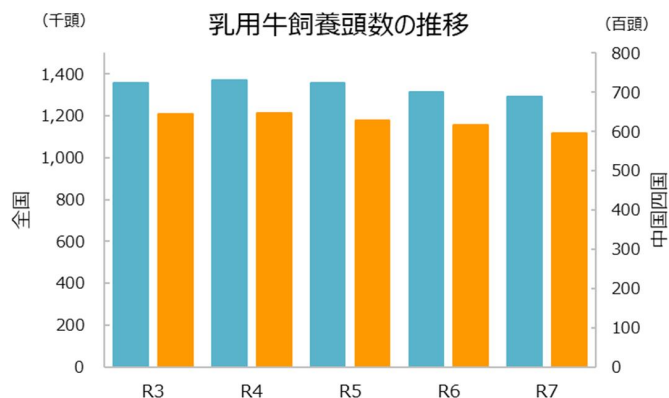
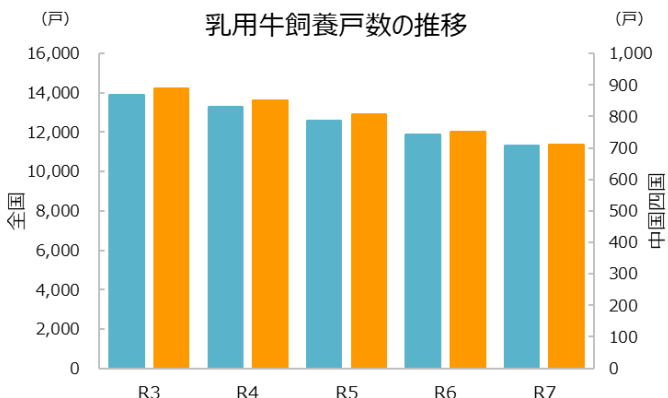
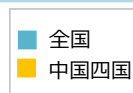
2

II 乳用牛

1. 飼養戸数・頭数

(1) 全国

令和7年の乳用牛の飼養戸数は11,300戸（対前年比5.0%減）、飼養頭数は1,293,000頭（対前年比1.5%減）、1戸当たりの飼養頭数は114.4頭（対前年比3.7%増）となっています。なお、全国の飼養頭数における管内の割合は4.6%となっています。



○飼養戸数は、年率3～5%程度の減少傾向で推移、飼養頭数も微減傾向。

○中国四国地域でも同様の傾向。

○1戸あたりの飼養頭数は年々増加傾向で推移しており、大規模化が進展。



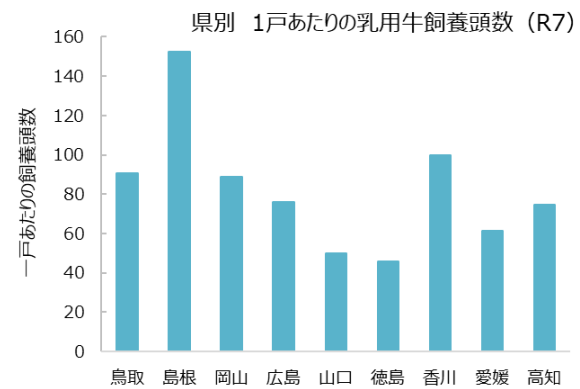
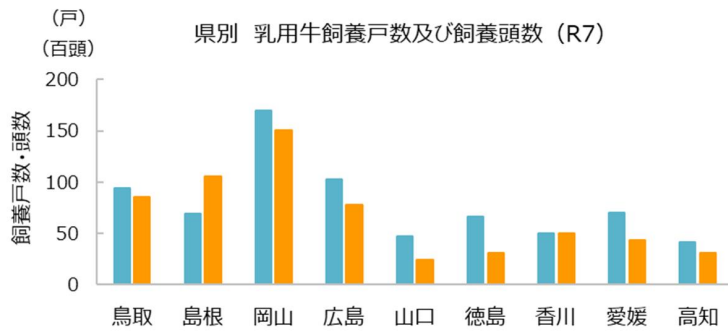
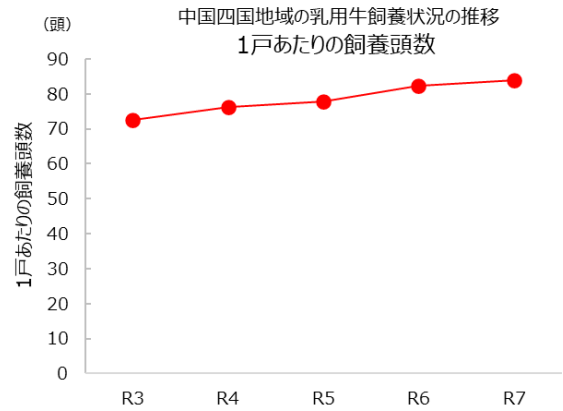
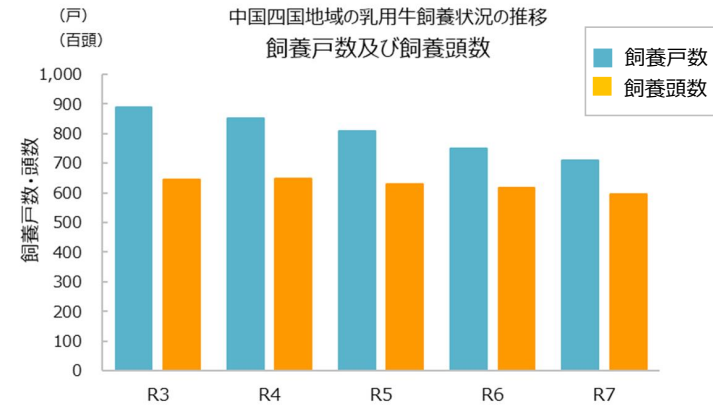
出典：農林水産省「畜産統計」

3

Ⅱ 乳用牛

(2) 中国四国地域

令和7年の乳用牛の飼養戸数は710戸（対前年比5.3%減）、飼養頭数は59,600頭（対前年比3.4%減）、1戸当たりの飼養頭数は83.9頭（対前年比2.0%増）となっています。また、管内において飼養戸数・頭数が最も多い県は岡山県（戸数 170戸、頭数 15,100頭）となっています。

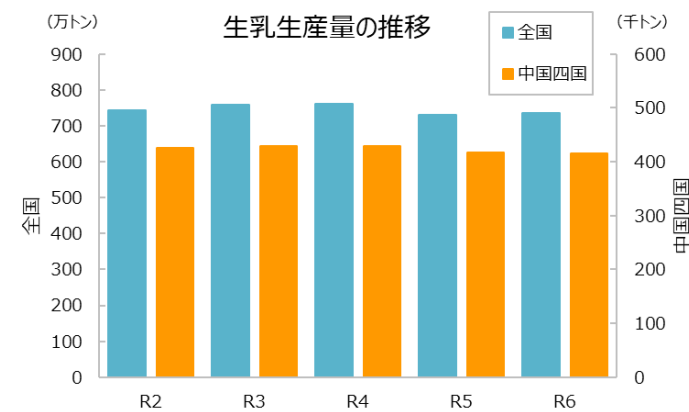


出典：農林水産省「畜産統計」

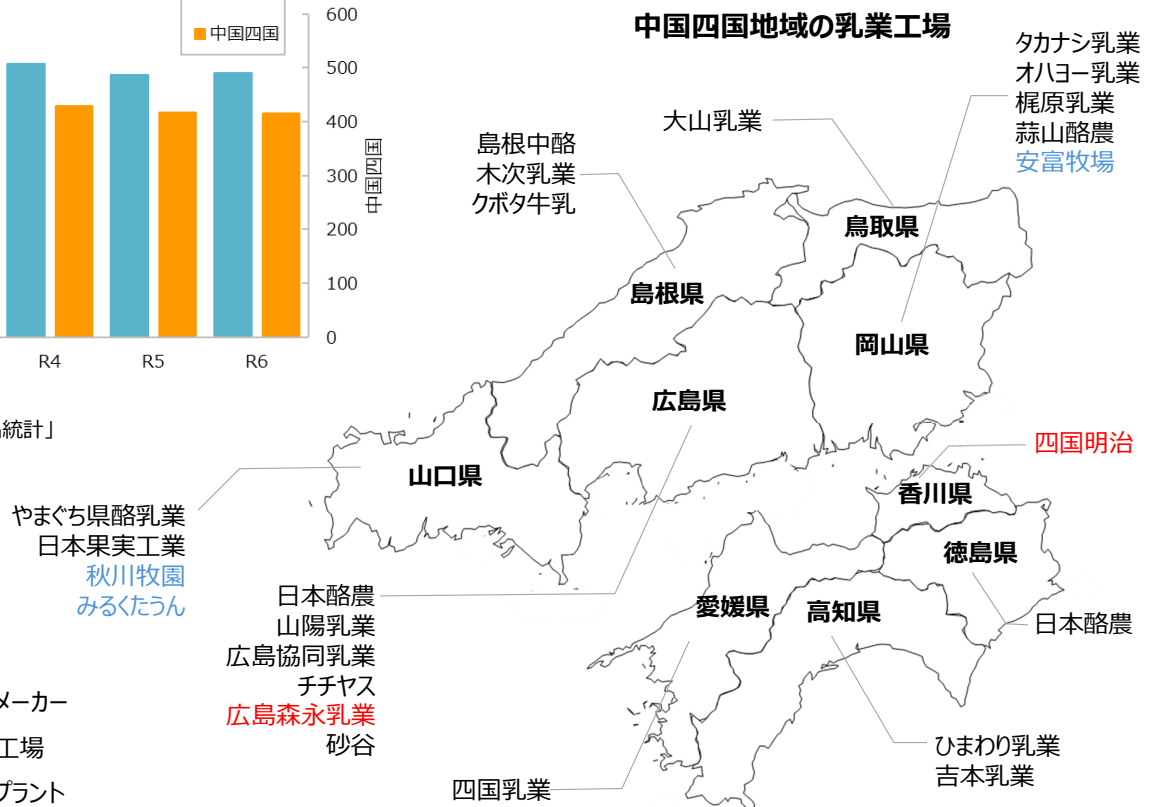
Ⅱ 乳用牛

2. 生乳生産量および中国四国地域の乳業工場

管内の令和6年の生乳生産量は、416千トンと前年からほぼ横ばいで、全国7,357千トンの5.7%を占めています。また、管内の乳業工場は、大手メーカー2、中小工場等22の合計24工場となっています。



出典：農林水産省「牛乳乳製品統計」



赤字：大手メーカー
黒字：中小工場
青字：農家プラント

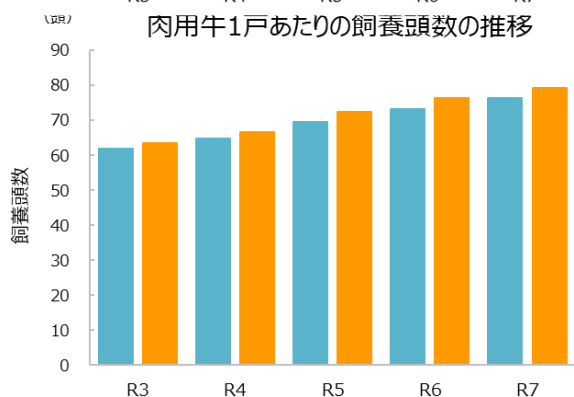
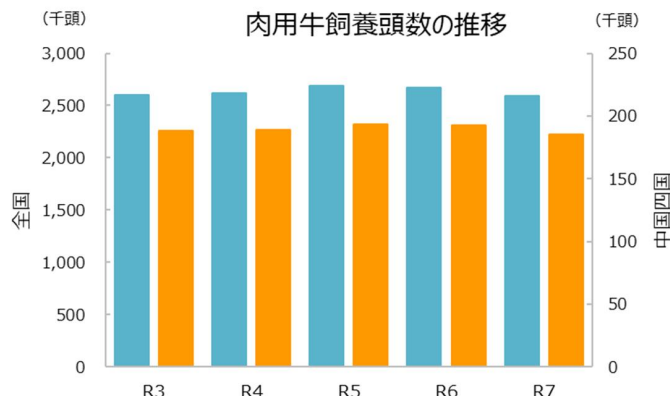
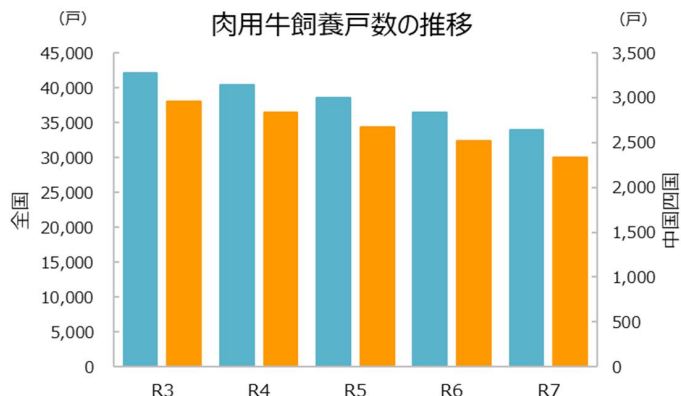
Ⅲ 肉用牛

1. 飼養戸数・頭数

(1) 全国



令和7年の肉用牛の飼養戸数は34,000戸（対前年比6.8%減）、飼養頭数は2,595,000頭（対前年比2.9%減）、1戸当たりの飼養頭数は76.3頭（対前年比4.2%増）となっています。なお、全国の飼養頭数における管内の割合は7.2%となっています。



- 飼養戸数は、年率3～5%程度の減少傾向で推移、飼養頭数は横ばい。
- 中国四国地域でも同様の傾向。
- 1戸あたりの飼養頭数は年々増加傾向で推移しており、大規模化が進展。

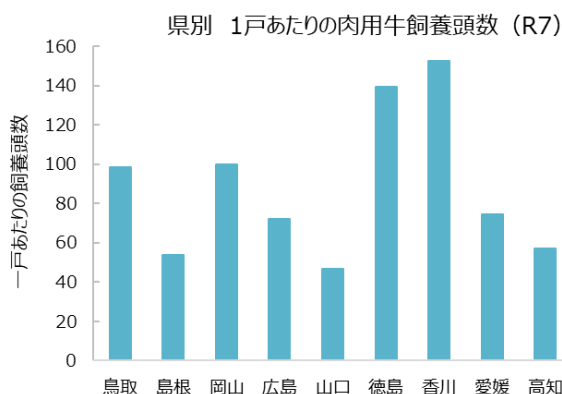
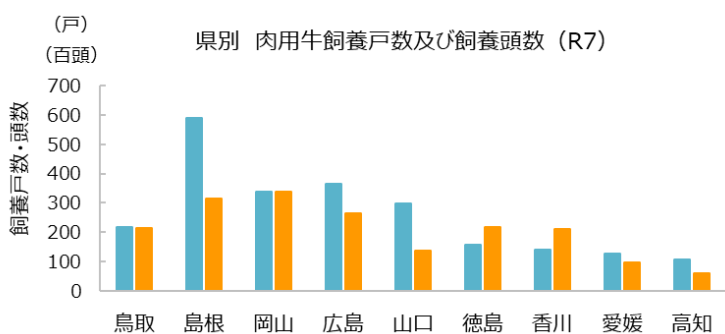
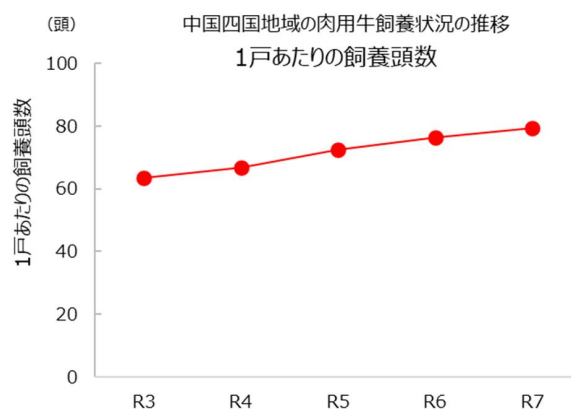
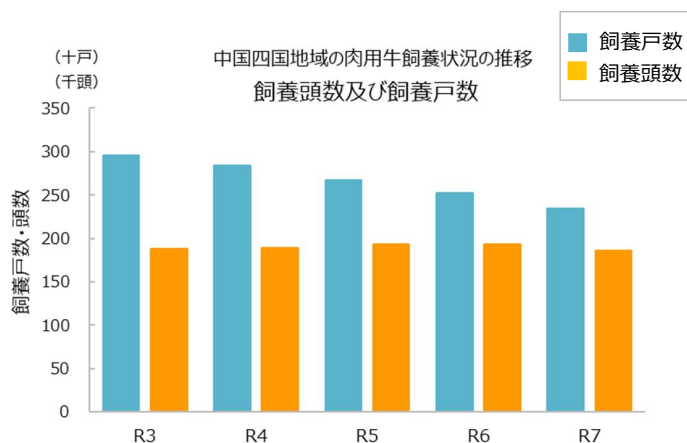


出典：農林水産省「畜産統計」

Ⅲ 肉用牛

(2) 中国四国地域

令和7年の肉用牛の飼養戸数は2,340戸（対前年比7.1%減）、飼養頭数は185,600頭（対前年比3.7%減）、1戸当たりの飼養頭数は79.3頭（対前年比3.7%増）となっています。また、管内では、飼養戸数は島根県（591戸）、飼養頭数では岡山県（33,800頭）が最も多くなっています。



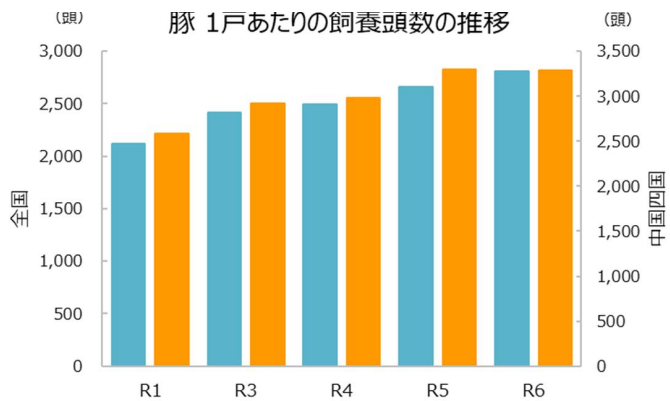
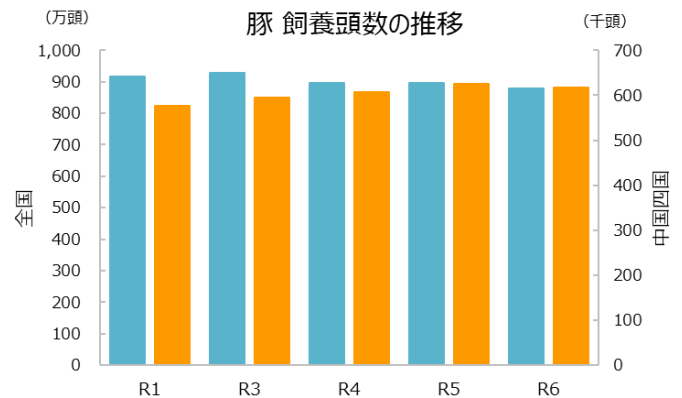
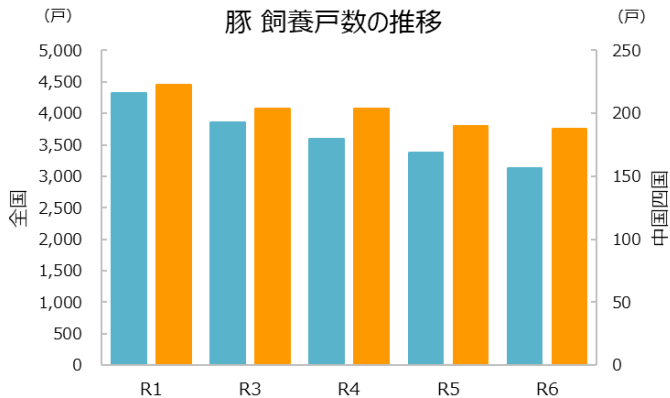
出典：農林水産省「畜産統計」

IV 豚

1. 飼養戸数・頭数

(1) 全国

令和6年の豚の飼養戸数は3,130戸（対前年比7.1%減）、飼養頭数は8,798千頭（対前年比1.8%減）、1戸当たりの飼養頭数は2,811頭（対前年比5.8%増）となっています。なお、全国の飼養頭数における管内の割合は7.0%となっています。



○飼養戸数は、全国・中国四国地域ともに減少傾向で推移。

○飼養頭数は、全国で減少傾向、中国四国地域は微増傾向で推移。

○1戸あたりの飼養頭数は年々増加傾向で推移しており、大規模化が進展。

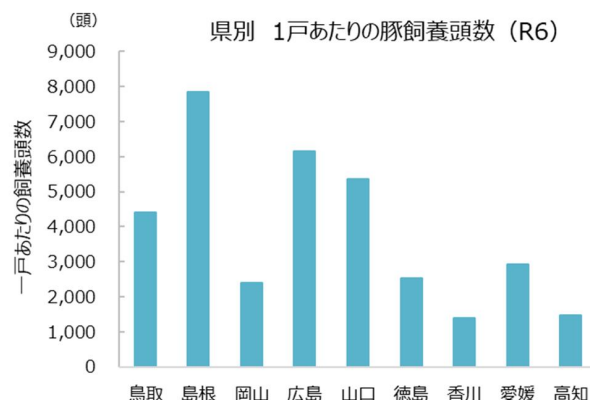
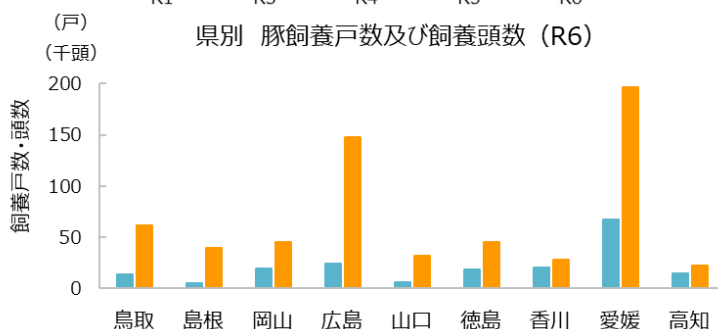
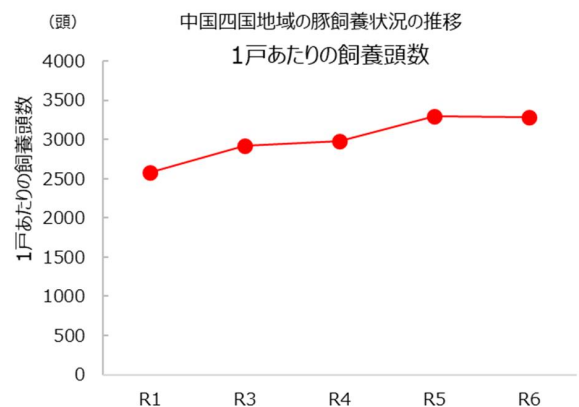
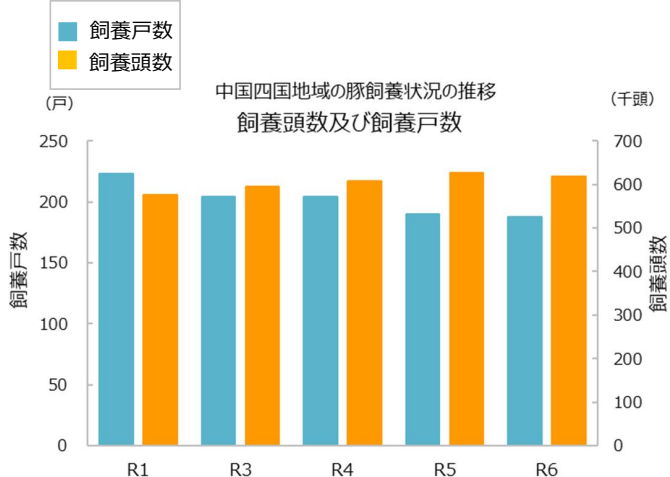
出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、農林業センサス実施年のため調査休止



IV 豚

(2) 中国四国地域

令和6年の豚の飼養戸数は188戸（対前年比1.1%減）、飼養頭数は618千頭（対前年比1.3%減）、1戸当たりの飼養頭数は3,287頭（対前年比0.2%減）となっています。また、管内において飼養戸数・頭数が最も多い県は愛媛県（戸数 67戸、頭数 196.5千頭）となっています。



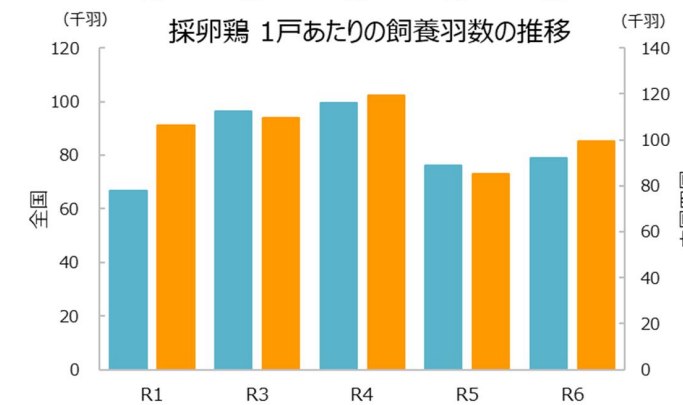
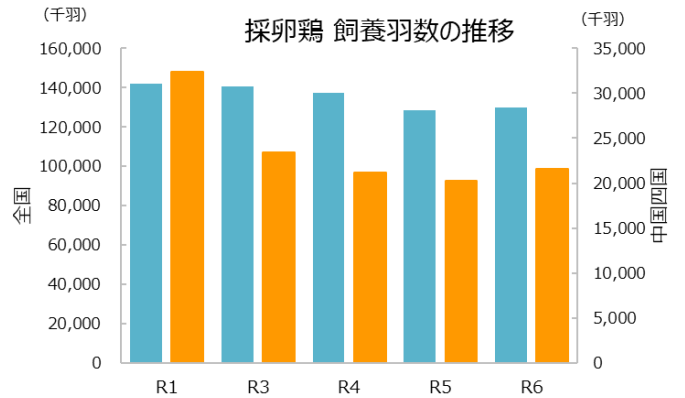
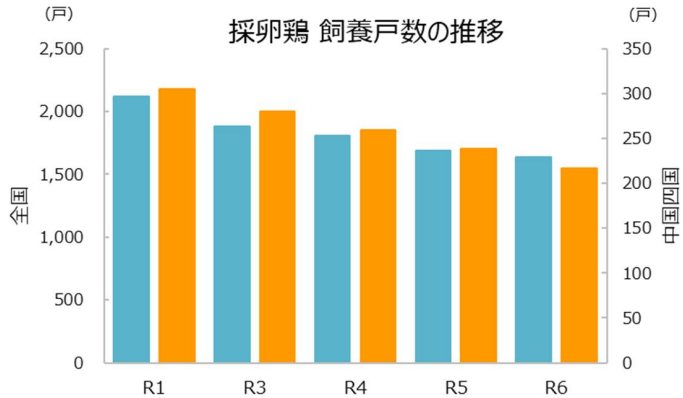
出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、農林業センサス実施年のため調査休止

V 採卵鶏

1. 飼養戸数・羽数

(1) 全国

令和6年の採卵鶏の飼養戸数は1,640戸（対前年比3.0%減）、飼養羽数は129,729千羽（対前年比0.9%増）、1戸当たりの飼養羽数は79.1千羽（対前年比3.9%増）となっています。なお、全国の飼養羽数における管内の割合は16.7%となっています。



○飼養戸数は、全国・中国四国地域ともに減少傾向で推移。

○飼養羽数は、鳥インフルエンザ発生による大規模な殺処分の影響により、令和5年に落ち込んだが、令和6年にわずかに増加。

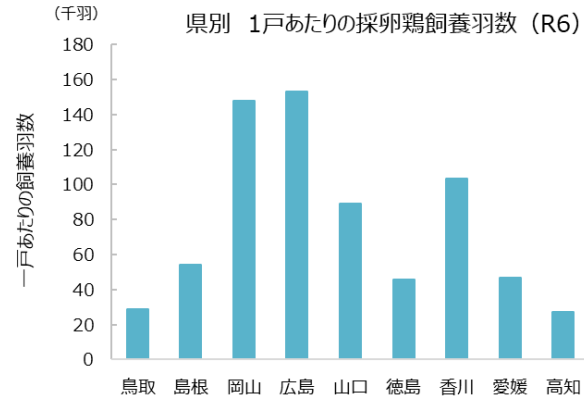
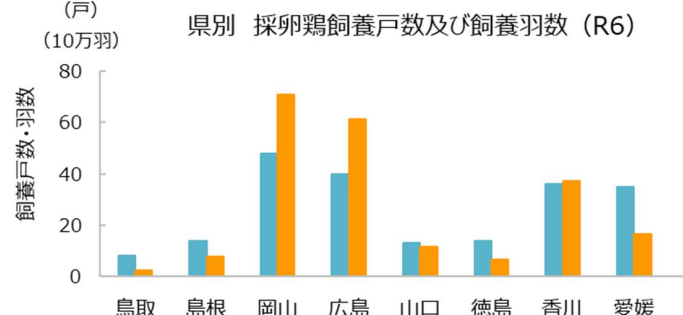
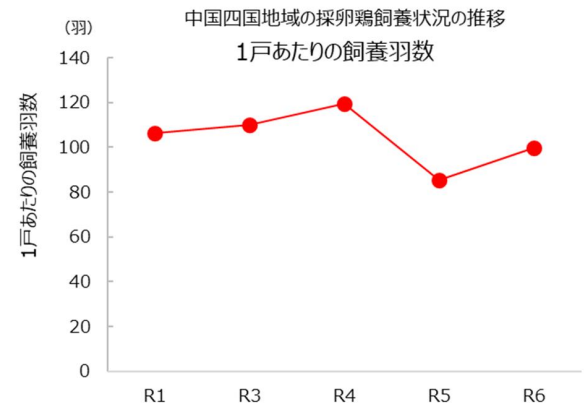
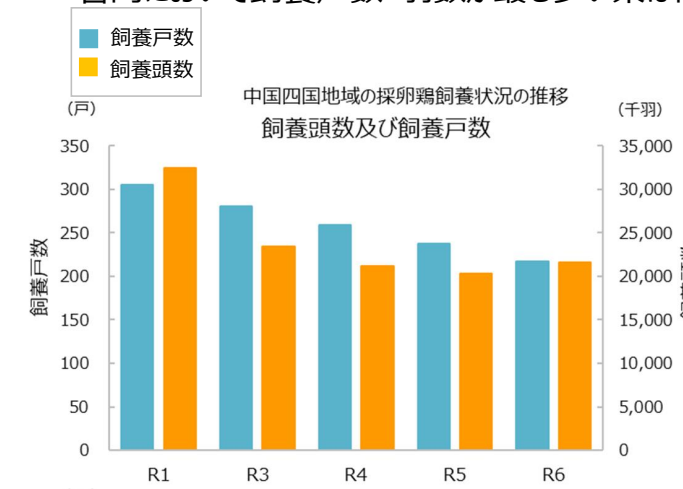
○1戸あたりの飼養頭数も鳥インフルエンザの影響を受け、令和5年より減少。

出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、農林業センサス実施年のため調査休止 10

V 採卵鶏

(2) 中国四国地域

令和6年の採卵鶏の飼養戸数は217戸（対前年比8.8%減）、飼養羽数は21,613千羽（対前年比6.7%増）、1戸当たりの飼養羽数は99.6千羽（対前年比17.0%増）となっています。また、管内において飼養戸数・羽数が最も多い県は岡山県（戸数 48戸、羽数7,089千羽）となっています。



出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、農林業センサス実施年のため調査休止

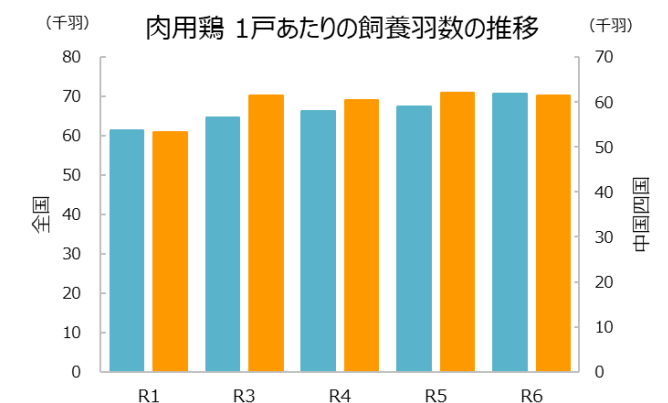
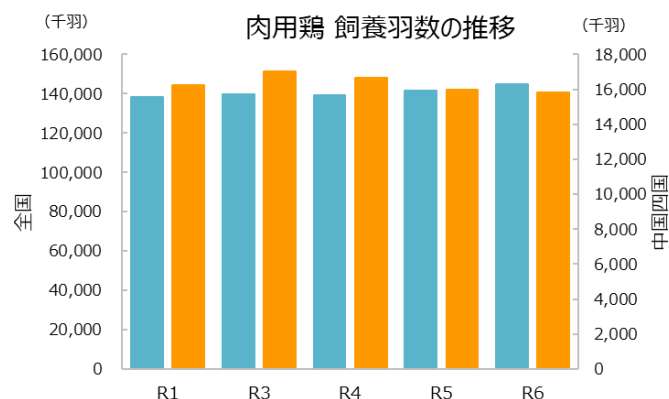
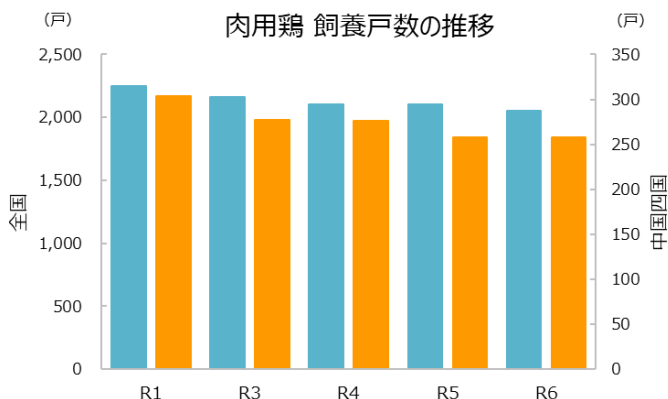
VI 肉用鶏

1. 飼養戸数・羽数

(1) 全国



令和6年の肉用鶏の飼養戸数は2,050戸（対前年比2.4%減）、飼養羽数は144,859千羽（対前年比2.4%増）、1戸当たりの飼養羽数は70.7千羽（対前年比4.9%増）となっています。なお、全国の飼養羽数における管内の割合は10.9%となっています。



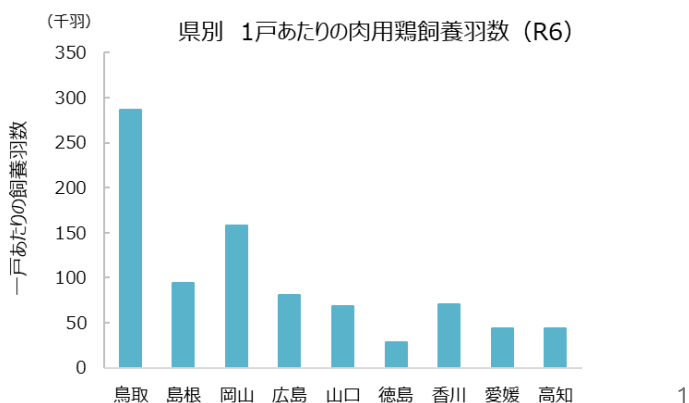
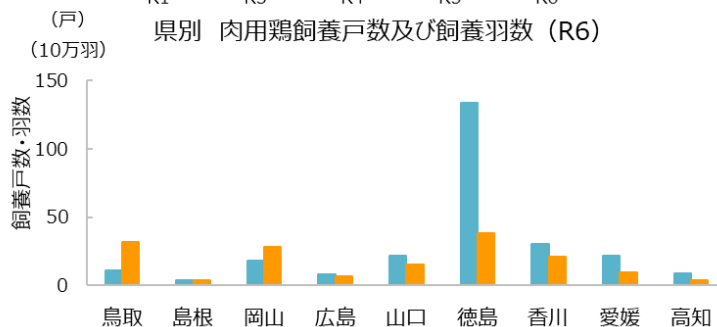
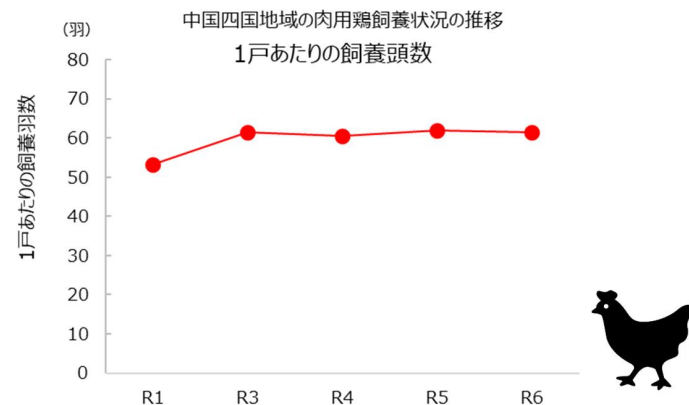
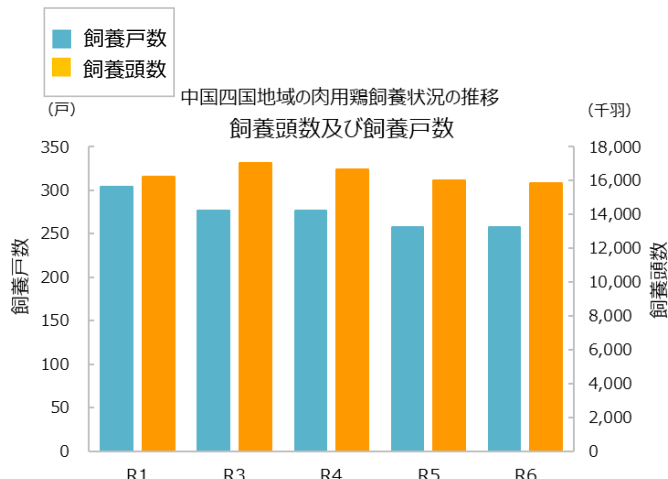
- 飼養戸数は、全国・中国四国地域ともに減少傾向で推移。
- 飼養羽数は、全国的には増加傾向にあるが、中国四国地域では令和3年より減少傾向で推移。
- 1戸あたりの飼養羽数は、全国では増加傾向にある一方、中国四国地域では令和3年より横ばい傾向。

出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、農林業センサス実施年のため調査休止

VI 肉用鶏

(2) 中国四国地域

令和6年の肉用鶏の飼養戸数は258戸（増減なし）、飼養羽数は15,840千羽（対前年比1.0%減）、1戸当たりの飼養羽数は61.4千羽（対前年比1.0%減）となっています。また、管内において、徳島県で飼養戸数・羽数ともに最も多く（戸数 134戸、羽数3,855千羽）なっています。

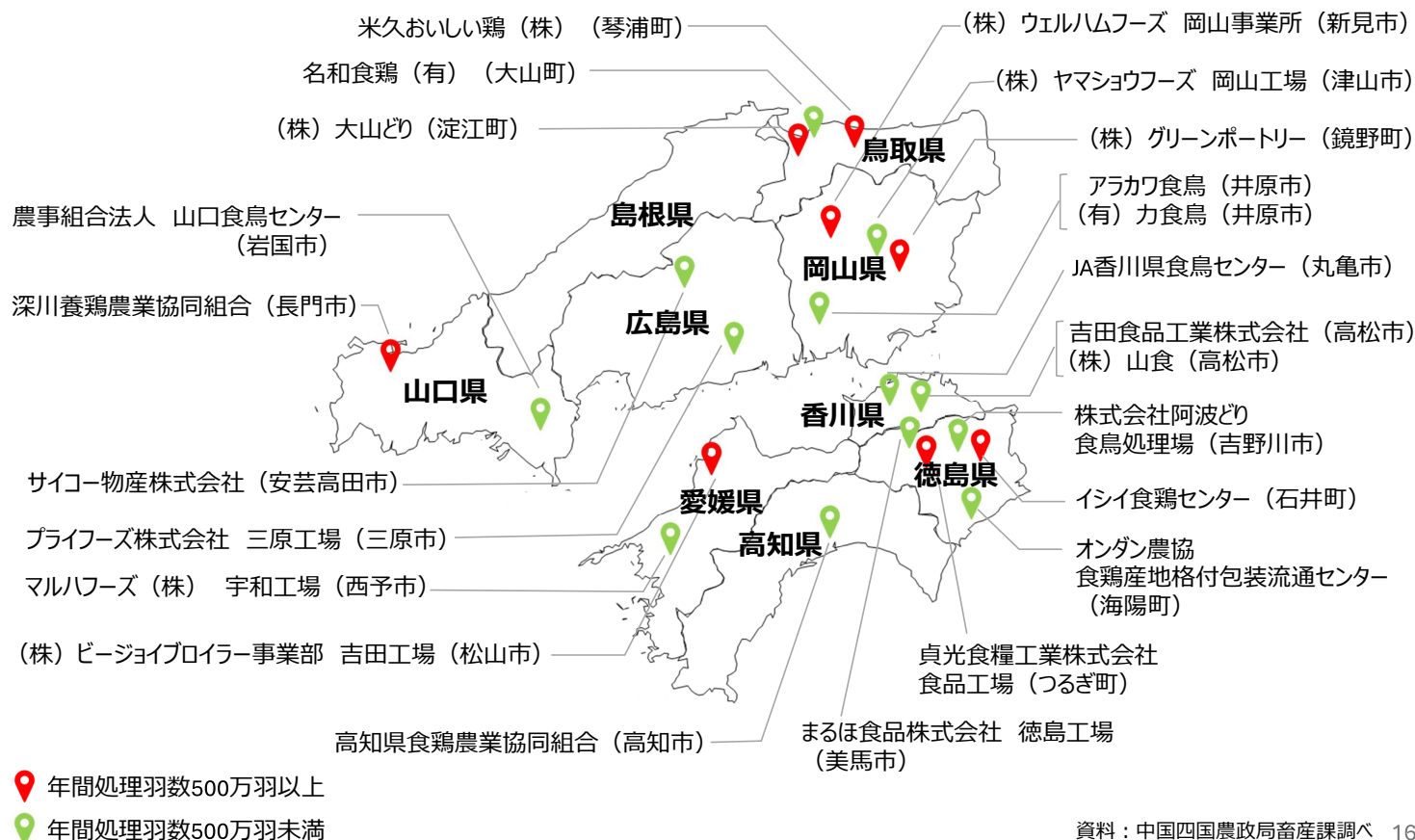


出典：農林水産省「畜産統計」
※令和2,7年は、2025年農林業センサス実施年のため調査休止

Ⅷ と畜場及び食鳥処理場

2. 食鳥処理場

管内の食鳥処理場は、中国地域12か所、四国地域11か所の、合計23か所となっています。



Ⅸ 家畜の飼料

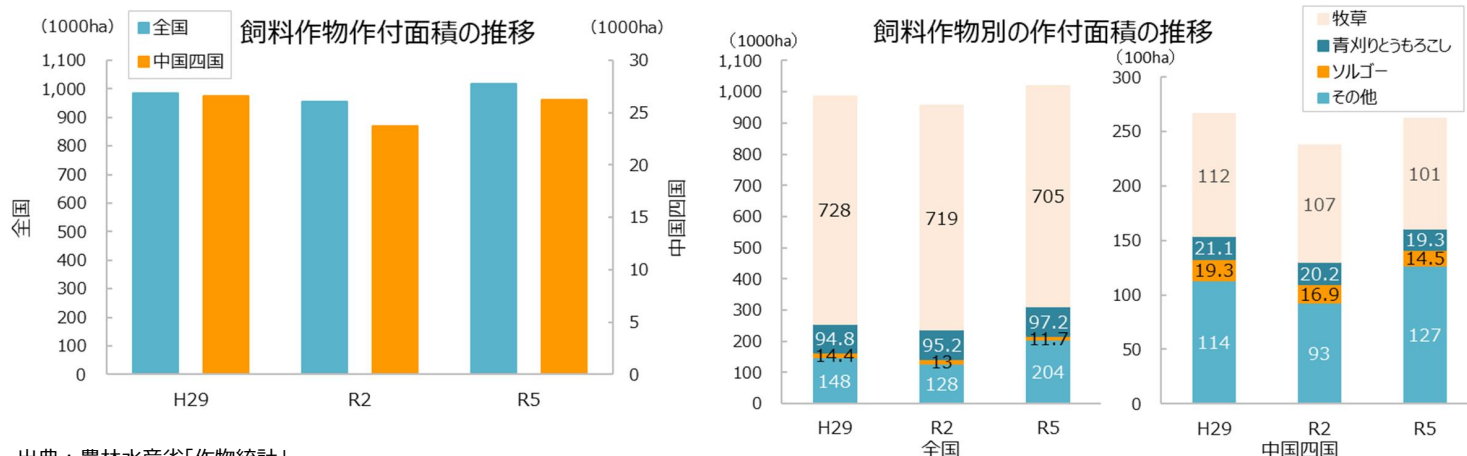
1. 飼料作物

(1) 全国

令和5年産の飼料作物の作付面積は、全国で1,018,000ha（対令和2年比6.5%増）、中国四国地域で26,250ha（対令和2年比10.9%増）となっており、全国の作付面積のうち管内の割合は2.6%となっています。

また、飼料作物別の作付面積は、全国では牧草の作付面積が多くを占めておりますが、管内ではその他の割合が多くなっています。

※飼料作物：牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー、その他（飼料用米、WCS用稲、その他の合計）



出典：農林水産省「作物統計」
飼料作物に係る調査は、全ての都道府県を調査対象とする全国調査を作付面積は3年ごと、収穫量調査は6年ごとに実施。

○飼料作物の作付面積は令和2年に減少したが、令和5年では増加。

○その他の作付面積が増加傾向。

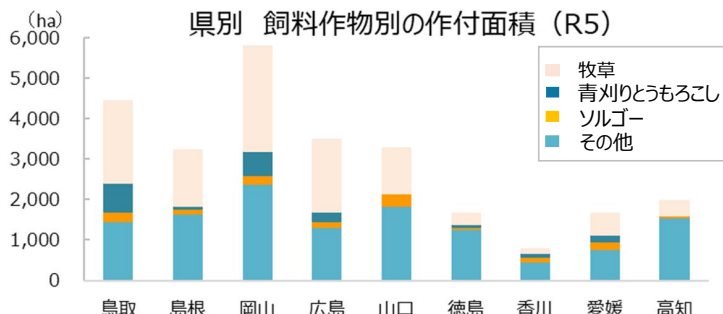
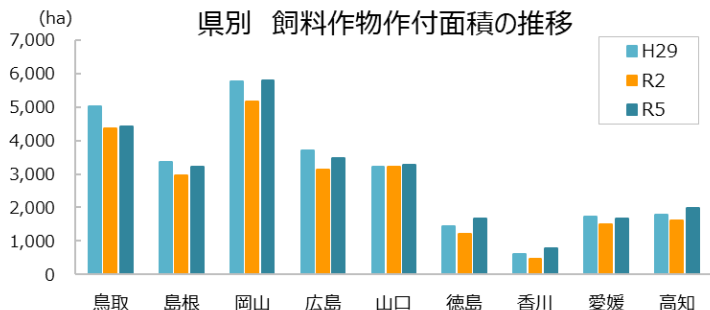
Ⅸ 家畜の飼料

(2) 中国四国地域

令和5年産の県別の飼料作物の作付面積は、岡山県で最も多く(5,790ha)、次いで鳥取県(4,420ha)となっております。

また、令和5年産の県別飼料作物別の作付面積では、中国地域では牧草及びその他の作付面積が多く、四国地域ではその他の作付面積が多くなっております。

※飼料作物：牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー、その他(飼料用米、WCS用稲、その他の合計)



出典：農林水産省「作物統計」

飼料作物に係る調査は、全ての都道府県を調査対象とする全国調査を
作付面積は3年ごと、収穫量調査は6年ごとに実施。

○土地面積の広い中国地域で飼料作物作付面積が多い傾向にある。

○多くの県で令和2年に飼料作物作付面積が落ち込んだが、令和5年には増加。



Ⅸ 家畜の飼料

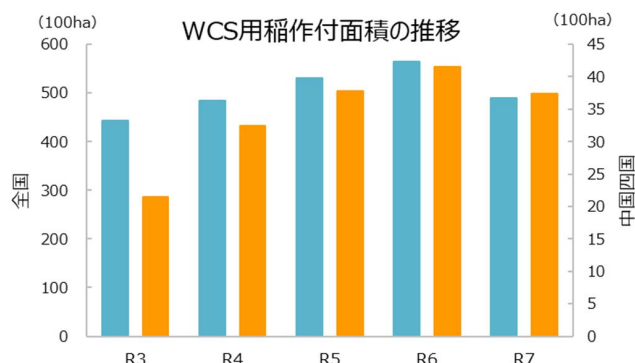
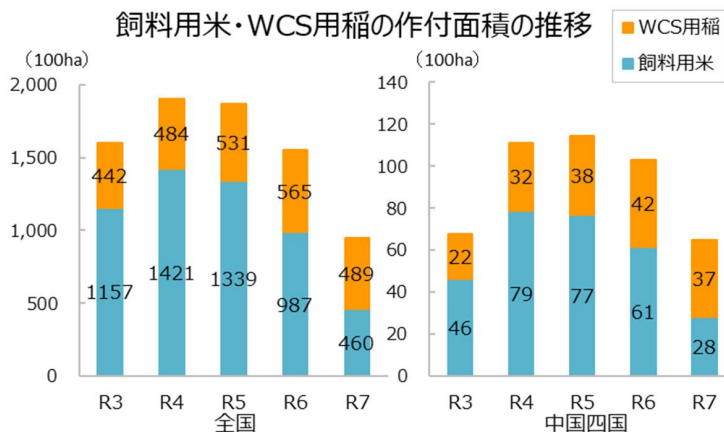
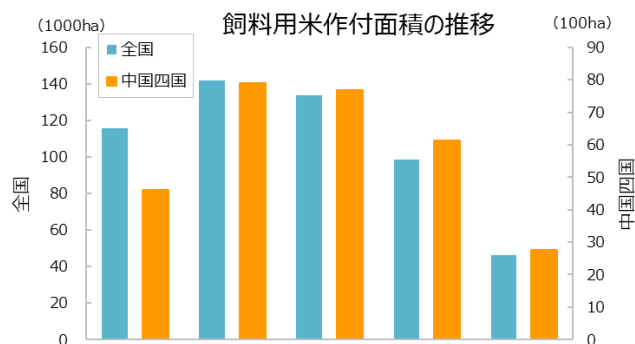
2. 飼料用米・WCS用稲

(1) 作付面積

令和7年産の飼料用米作付面積は、全国で46,004ha(対前年比53.4%減)、中国四国地域で2,758ha(対前年比55.0%減)であり、全国の作付面積のうち管内の割合は6.0%となっております。

また、WCS用稲の作付面積は、全国で48,896ha(対前年比13.4%減)、中国四国地域で3,737ha(対前年比10.2%減)であり、全国の作付面積のうち管内の割合は7.6%となっております。

※WCS(Whole Crop Silage)用稲：稲発酵粗飼料(稲の出穂後、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料)用の稲。



○飼料用米は令和5年までは増加傾向であったが、令和6年から7年は減少。

○WCS用稲は増加傾向にあったが、令和7年は減少。

出典：農林水産省農産局「新規需要米の取組計画認定状況」
※令和7年産は「新規需要米の取組計画届出状況」

Ⅸ 家畜の飼料

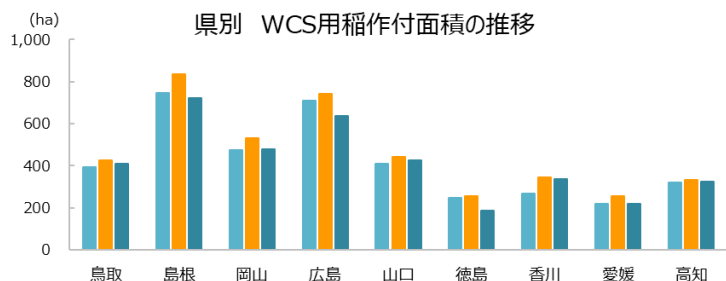
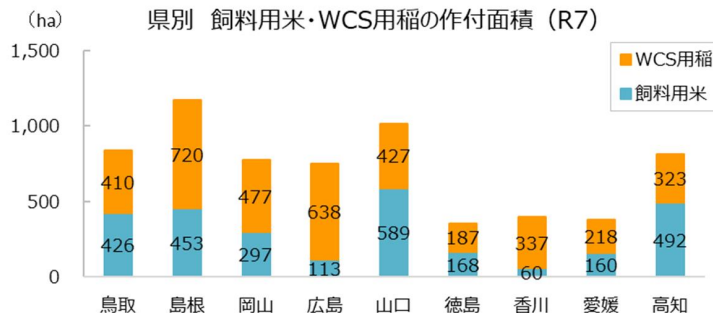
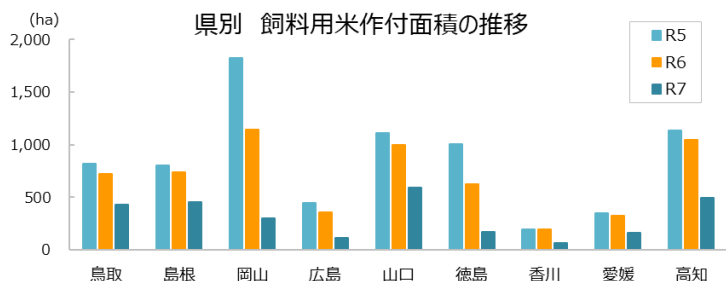
(2) 管内各県の状況

飼料用米作付面積は、これまで管内で最も多かった岡山県が1/4まで減少しました。同様に、その他の県においても4～6割程度、減少しました。

また、WCS用稲作付面積は、中国地域で多い傾向にあり、特に島根県で多い状況となっています。

飼料用米及びWCS用稲の生産利用の拡大を図るため、生産者と畜産農家のマッチングを行うための体制を構築し、取組を推進しています。

※ WCS (Whole Crop Silage) 用稲：稲発酵粗飼料（稲の出穂後、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料）用の稲。



出典：農林水産省農産局「新規需要米の取組計画認定状況」
※令和7年産は「新規需要米の取組計画届出状況」



Ⅸ 家畜の飼料

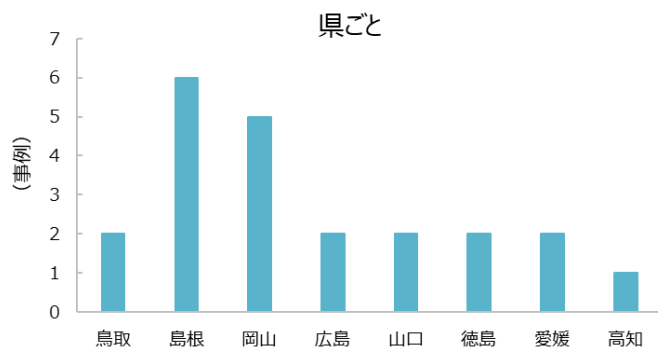
(3) 飼料用米用取組事例

管内の飼料用米取組事例は、以下のとおりです。

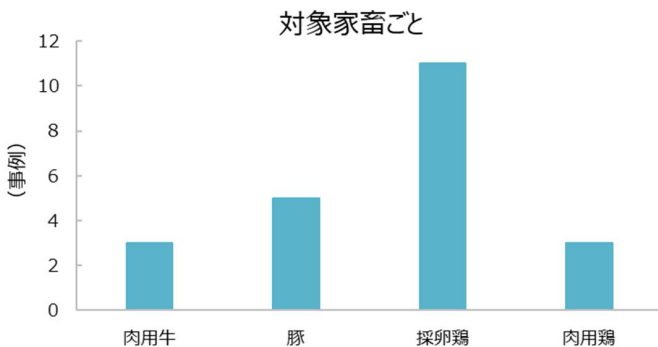
県名	対象家畜	名称	生産地等
鳥取	豚	大山こめ豚「みみとん」	(株)西日本ジェイエイ畜産・鳥取県生活協同組合
	採卵鶏	さくらのこめたまご	小川養鶏場
島根	肉用牛	まい米牛	(有)藤増・JALしまね出雲地区本部
	採卵鶏	島根のこめたまご	(有)旭養鶏舎
	採卵鶏	島根のこめたまご	(有)福田ファーム
	採卵鶏	石見のこめたまご	(有)山本産業
	採卵鶏	島根のこめたまご	(限)森脇鶏農場
	採卵鶏	彩り天祐卵	(株)たなべたたらの里 たなべ森の鶏舎
岡山	肉用牛	コープおかやま牛	生活協同組合おかやまコープ
	豚	コープおかやま豚	生活協同組合おかやまコープ
	豚	米プレッとん	新田養豚
	採卵鶏	コープ産直こめたまご	生活協同組合おかやまコープ
広島	肉用鶏	コープおかやま若鶏	生活協同組合おかやまコープ
	豚	お米(マイ)・ポーク	(株)広島ポーク
山口	採卵鶏	生協産直こめたまご、稲の香り、米入りそだち、3-R広島こめたまご、桃色こめたまご	広島たまご株式会社
	採卵鶏	やまぐちの米育ち、長州米たまご、徳地のこめたまご、山口米たまご	(株)出雲ファーム
徳島	肉用鶏	長州どり、長州黒かしわ	深川養鶏農業協同組合
	採卵鶏	地米卵(じまいたまご)	徳島県農業再生協議会
愛媛	肉用鶏	大河のおすそわけ神山鶏	石井養鶏農業協同組合
	肉用牛	はなが牛	(株)ゆうぼく
高知	採卵鶏	米っ娘たまご	(有)イヨエッグ
	豚	四万十ポーク	四万十ポークブランド推進協議会

資料：中国四国農政局畜産課調べ (R7年11月時点)

中国四国管内における飼料用米取組事例数



中国四国管内における飼料用米取組事例数

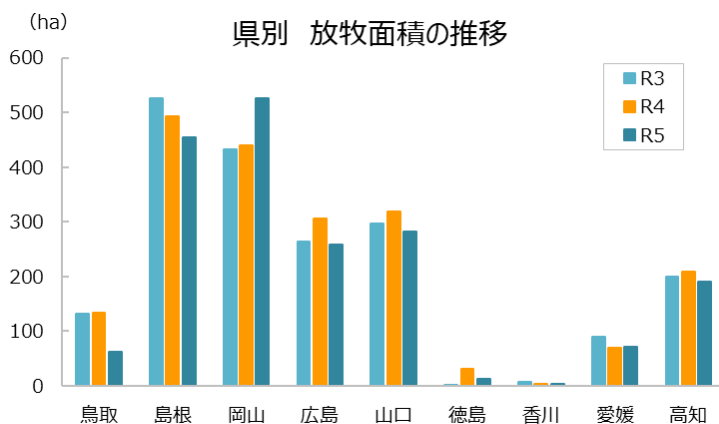


Ⅸ 家畜の飼料

3. 放牧面積

管内の令和5年度の放牧面積（公共牧場除く）は、1,859haで、前年（2,003ha）と比較し、144ha（7.2%）減少しました。

県別では、島根県及び岡山県で他県と比較し、放牧面積が大きく推移しています。



資料：中国四国農政局畜産課調べ（R7年11月時点）

【島根型放牧】

農地保全と経営に放牧を取り入れた資源循環型農業を目指した放牧体系で、林地・野草放牧の取組が多い。

【山口型放牧】

農地保全と飼養管理の省力化を図ることを目的とした放牧体系で、水田放牧や小規模移動放牧が多い。

【山地畜産（山地酪農を含む）】

シバ草地等を活用し、季節を問わず通年昼夜、放牧する体系で、高知県での取組が多い。



22

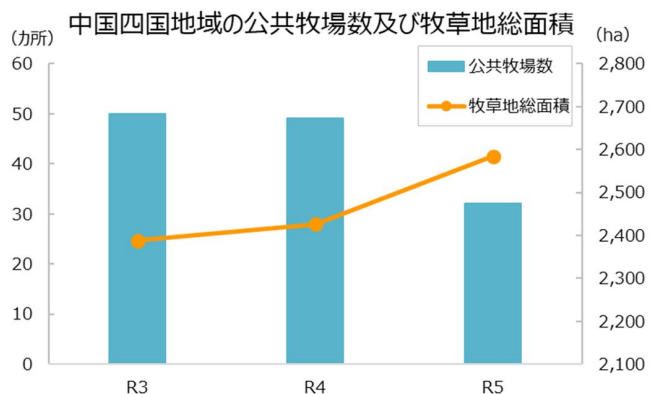
Ⅸ 家畜の飼料

4. 公共牧場

管内の令和5年度の公共牧場は32カ所、牧草地総面積は2,584haとなっております。

また、夏季利用頭数は6,244頭で、前年（6,094頭）に比べ150頭（2.5%）増加しています。

※公共牧場：畜産農家の労働負担の軽減や不足する飼料基盤の補完等を図るため、地方公共団体や農協等が、畜産農家の飼養する乳用牛や肉用牛を一定期間預かり、放牧等を通じてそれらの飼養管理を行う牧場。

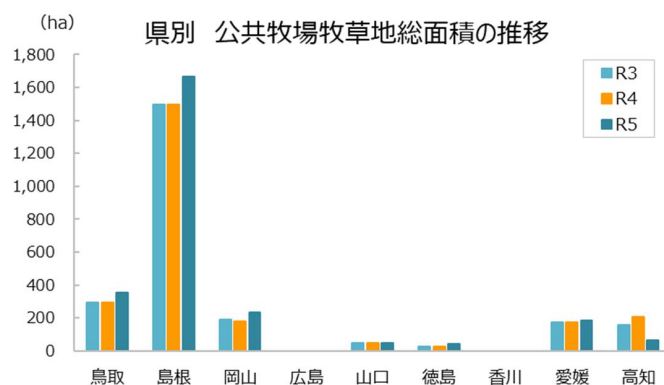
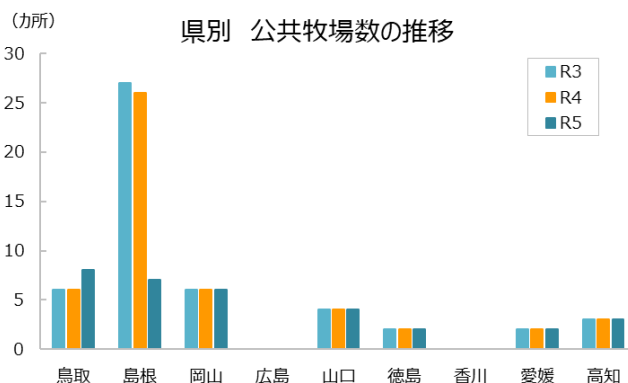


資料：（一社）日本草地畜産種子協会「公共牧場経営等実態調査」

○令和5年度は、島根県の公共牧場のカウント方法が変更となったことにより、公共牧場数が減少。

○広島県及び香川県は公共牧場なし。

○鳥取県、島根県、岡山県、徳島県において、牧草地総面積が令和5年度で増加。



23

Ⅸ 家畜の飼料

5. エコフィード

管内の主なエコフィード製造事業者は、以下のとおりです。

県名	名称	事業内容	エコフィード原材料	対象家畜	所在地
島根	新生飼料株式会社山陰工場	飼料製造	製造副産物	牛	大田市
	株式会社松永牧場	畜産(自家配合)	豆腐粕、フルーツ残渣、焼酎粕等	乳用牛、肉用牛	益田市
	株式会社熟豊ファーム	畜産(自家配合)	酒粕、豆腐粕、醤油粕等	牛、鶏	雲南市
広島	有限会社広島水産加工	加工業者	魚アラ	鶏、豚、魚	呉市
	広島県酪農業協同組合みわTMRセンター	TMRセンター	ビール粕、豆腐粕、醤油粕等	乳用牛	三次市
	日本畜産株式会社	畜産(自家配合)	パン生地	豚	福山市
	株式会社ヒロシマ・コープ	食品販売・加工業者	柑橘搾汁残さ	—	三原市
	株式会社ロハスネットロハスフードプロセッサ	飼料製造	パン屑、豆腐類	豚	府中町
	株式会社タカキベーカリー	食品販売・加工業者	パン屑、小麦粉	豚	広島市
	全国農業協同組合連合会広島県本部	TMRセンター	ビール粕	肉用牛	三次市
	JA全農ひろしま和牛TMRセンター				
	丸栄株式会社	食品販売・加工業者	牡蠣殻	鶏、豚、牛	広島市
	株式会社サクラオブルワリーアンドディスティラリー	食品販売・加工業者	ウイスキー粕	—	廿日市市
	食協株式会社志和精米工場	食品販売・加工業者	精米水	豚	東広島市
	アオハタ株式会社	食品販売・加工業者	余剰食品(ジャム)、ジャム製造残さ	豚	竹原市
山口	株式会社アースクリエイティブ	食品リサイクル	食品等	豚、家禽	宇部市
	食品リサイクルセンター「きららエコフィード」				
香川	有限会社小野養豚	畜産(自家配合)	パン屑	豚	萩市
	サンフーズ株式会社	食品リサイクル	パン屑	豚、鶏	三豊市
愛媛	(株)えひめ飲料松山工場搾汁粕果皮処理施設	食品販売・加工業者	柑橘搾汁粕	牛、豚	松山市
	株式会社グリーンヒル	食品販売・加工業者	ケール粕	牛	西予市
高知	農事組合法人四国デュロックファーム	畜産(自家配合)	菓子屑、麺類等	豚	四万十町

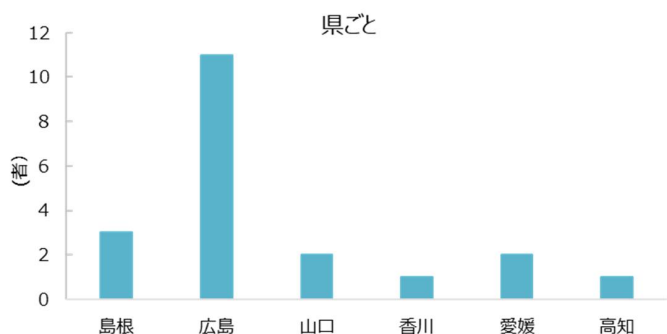
資料：中国四国農政局畜産課調べ(R7年11月時点)

Ⅸ 家畜の飼料

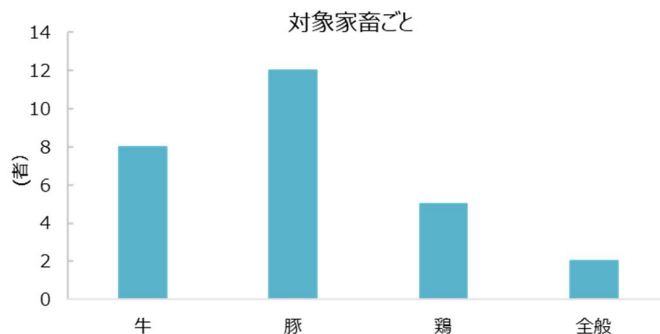
5. エコフィード

管内のエコフィード製造事業者数は、広島県が多く、また、豚で多く給餌されています。また、エコフィード製造事業者の多くは、食品販売・加工業者であり、エコフィードの原材料は余剰食品及び調理残さが多くを占めています。

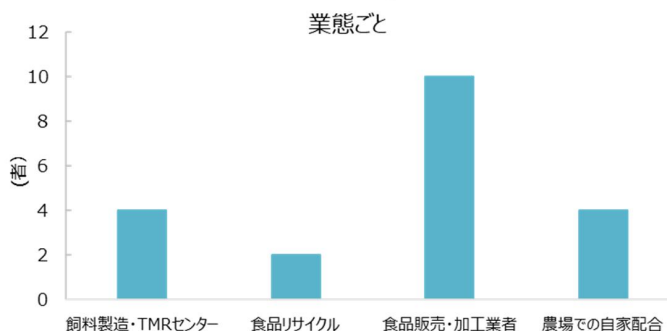
中国四国管内におけるエコフィード製造事業者数



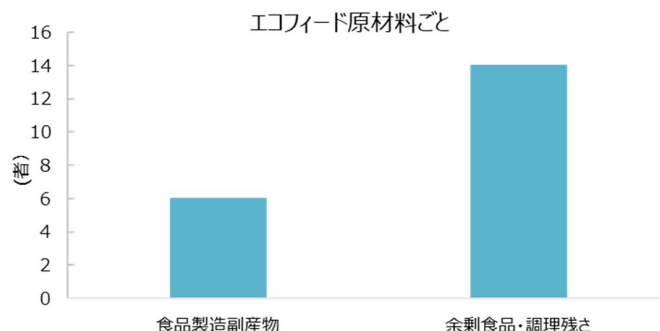
中国四国管内におけるエコフィード製造事業者数



中国四国管内におけるエコフィード製造事業者数



中国四国管内におけるエコフィード製造事業者数



※食品製造副産物：醤油粕、焼酎粕等、食品の製造過程で得られる副産物
 余剰食品：売れ残りのパンやお弁当等、食品としての利用がされなかったもの
 調理残さ：野菜のカットくずや非可食部等、調理の際に発生するもの

Ⅸ 家畜の飼料

6. 配合飼料工場

管内の家畜向け配合飼料工場は、中国地域 8 か所、四国地域 5 か所の合計 13 か所となっています。

